



通信制大学で学びながら佐渡で農家になる夢をかなえようと奮闘する若者がいる。コメ作りやおけさ柿の栽培に励む畑野地区在住の中村洸葵さん(22)だ。「大学がない佐渡でも学ぶことはできるし、主体的に動けばやりたいことは見つかる。いつか夢を実現し、地域貢献がしたい」と自信に満ちた表情で未来を見据えている。

農家を志す通信制大学生

中村 洸葵さん



農家を志し、通信制大学に通いながら農作業に励む
中村洸葵さん＝佐渡市の笹川集落

中村さんは普通高校に 勉強のストレスで体調
通っていた3年の春、受を崩し、真野新町の学習

笹川 のコメ作り目指し

施設「アフタースクール」
に併設されている通信制
高校に転入した。

体調は半年ほどで回復したが、これといった目標を持つこともできず、進路を決めかねていた。卒業間際、アフタースクール代表の高柳一巳さん(69)から、動画で講義を受けられる通信制大学の放送大学を勧められ、「取りあえず」入学を決めた。転機は大学2年の時。地域おこし協力隊が主催する自然栽培でコメを作る農業体験プロジェクトに参加した。早朝に作業するすがすがしさや、頑張った結果が目に見えるという農業の魅力に気が付いた。「この仕事に向

いているのかもしれない」。農業をなりわいとして働く自分の姿が自然にイメージできた。

2年前、親戚の紹介で

笹川集落のコメ農家盛山保さん(45)の下で働くことに。昨年から臨時職員として働いていた事務員の仕事を辞めてフルタイムで採用してもらい、本腰を入れた。並行して父のおけさ柿栽培の手伝いにも精を出す。

早朝から日没までは農作業で汗をかき、夜は眠い目をこすりながらテキストを開く。来春の大学卒業を目指し、農業経営などを学んでいる。世界文化遺産「佐渡島の金山」の構成資産・西三川砂金山がある笹川集落で育てるコシヒカリと、こがねもちに大きな愛着を持つ。「湧き水の質が良いからなのか、味

がすごくいい」と胸を張る。

一方で、高齢化で耕作放棄地が増え続けていることに危機感を覚える。

「笹川の景観を守るためにも、持続可能な経営ができる具体的な計画を立てたい」と意気込む。見据えるのは、引退する農家の農地を引き継いで独立し、笹川のおいしいコメを消費者に届け続けることだ。

佐渡市の高卒者の約9割は島外での進学や就職を選ぶ。「島外でないとなれない職業があるのは事実だが、自分は佐渡で夢が見つかった」と中村さん。佐渡に残り、「地元のために何かしたい」と思う若者が増えれば、佐渡はもっと面白い島になる」と信じている。

（佐渡総局・山崎祥吾）
＝随時掲載＝